

普及活動情勢報告（令和2年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

J A高知県土長地区長岡ニラ部会講習会の開催



5月29日、J A高知県土長地区長岡ニラ部会栽培講習会が、長岡支所で開催され、生産者8名が参加しました。

会議では、J Aから販売情勢、軟腐病等による傷みやナメクジによる市場事故防止、そぐりの徹底について説明がありました。

農業振興センターからは、高温期に発生が多い病害虫防除、環境制御技術導入の取り組み等についての情報提供を行いました。農家からは、アザミウマ類に対する防除対策や新規薬剤等について質問が出されるなど高い関心を示していました。

今後も、J A営農指導課と連携し、生産者の栽培技術向上に向けて支援を行っていきます。

農事組合法人ファーム西永野通常総会が開催されました



5月24日、香美市の集落営農法人(農)ファーム西永野の通常総会が開催されました。

農業改良普及課は、役員との事前打合せで、実績と計画を比較しながら課題整理を行い、今後の方向性等について助言しました。

代表理事の挨拶の中で、「任意組合の設立を含めて約10年が経ち、今後は後継者の確保に向けて皆で相談しながら進めていきたい」と話がありました。

今後も関係機関と協力しながら、組織の課題解決に向けて支援していきます。

J A高知県土長地区土佐甘とう部会の開催～次作に向けた取り組み～



6月9日、J A高知県土長地区土佐甘とう部会が、南国営農経済センターで開催され、生産者9名が参加しました。

会では、J Aから販売情勢、販売規格の一部変更、次作の作付け計画、新規栽培生産者の加入が報告されました。

農業振興センターからは、毎年問題となるうどんこ病のイオウ燻煙による発生抑制試験への協力依頼、タバコカスミカメの温存ハウスを用いた安定供給体制への要望調査を全部会員に行い、生産者も高い関心を示していました。

今後も、J Aと連携し、生産者の栽培技術の課題解決に向けて支援を行っていきます。

安全・安心をPRして更なる販路拡大を ～土佐園芸生産組合がJGAP団体認証取得～



5月1日、香美市、南国市の青ネギ生産農家14戸で構成する土佐園芸生産組合は、県内で初めてJGAP団体認証を取得しました。

農業改良普及課は、取得までに県環境農業推進課と連携して、団体管理マニュアル等必要書類の作成への助言、内部監査での課題の抽出と改善点の提案、土づくり講習会での指導などを行ってきました。

JGAP認証の取得により、休止していた外資系量販店との取引が再開されるなど効果が早速表れており、同組合の代表からは、「認証の取得で、食の安全・安心への取り組みを大きな声でPRできる」と販路拡大に向けて意気込みをみせていました。

今後、農業改良普及課では、同組合の青ネギ安定生産とJGAP団体認証の継続を支援します。

6次産業化の取り組みに向けて ～香美せわし会～



6月13日、JA高知県香北支所加工場婦人センターにおいて、「香美せわし会」の5名が6次産業化支援チーム会に向け、事前検討を行いました。「香美せわし会」は、ユズ味噌の商品化を目指しており、地域産物の有効活用により、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

農業改良普及課は、「香美せわし会」の現状の課題、今年度の計画や取り組みについて助言しました。

今後、農業振興センターは、6次産業化支援チーム会により専門アドバイザーや地域支援企画員と連携しながら、「香美せわし会」の取り組みを支援していきます。

JA高知県香美地区露地みかん部会山北支部が無人ヘリ防除実演会を開催



6月16日、JA香美地区露地みかん部会山北支部が無人ヘリ防除実演会を開催し、生産者35名が参加しました。

水稲の無人ヘリ防除のオペレーターでもある部会役員からの提案で実現しました。昨年度、農業振興センターがドローン防除について情報提供していたこともあり、たくさんの生産者が参加し、防除を見学しました。振興センターは資料による補足説明を行いました。

散布後、みかんの樹を観察し、樹の下部や葉裏への薬剤の付着が確認できたため、無人航空機による防除の評価は高まりました。

農業振興センターは、今後もドローン防除等、省力化につながる新技術について情報提供していきます。

